

1 学期实践研究報告

外国語科 教諭 坂 恭佑

1年生1学期は中学校の英語学習の土台をつくと同時に、小中連携の視点を意識し、小学校で培ってきた力をさらに伸ばしたいと考え、話すこと（やり取り）を中心に授業を組み立てました。今回の実践報告では、3人組（トリオ）で行ったやり取りの活動の実践を紹介します。

1 単元を通して身に付けてほしい力

1年生1学期で学習するターゲットセンテンスや語彙は小学校で学習したものと重なる部分が多いです。自分の思いや考えをマッピングで広げてから、そのキーワードを使いながらやり取りを行いました。自分の思いや考えを簡単な英語で即興的に言える力を身に付けてほしかったからです。

また、会話が継続するためにはどんなことに意識すれば良いのかを生徒一人一人が考え、挑戦し、うまくいった経験とうまくいかなかった経験を積み重ねてほしいと思っていました。どちらの経験も、これからの言語学習を支える大切な力になります。小学校で学習したことがどの程度身に付いているか、そしてどこを伸ばしていけばよいかを生徒自身が把握する力も身に付けてほしかったです。

2 単元終末の言語活動（シマフのH&T）

1年生の序盤は2人（ペア）で話をするが多かったので、この単元では3人組（トリオ）で話をする活動を中心に単元を構想し、展開しました。著名な芸能人3名が語りを楽しむ番組を参考に、英語で話すこと

（やり取り）って面白いな、ワクワクするな、でもやっぱり緊張するな、不安だな、そんな純粋な気持ちを味わってほしいので、単元末活動はテレビ番組の撮影としました。生徒は4分間で、番組撮影と称してその日きまったメンバーと「ヒーローや宝物」についてのやり取りを継続しました。事前にヒーローや宝物が、自分の人生を支えてくれる大切な人や物だという共通認識をもち、互いの思いや考えを伝え合いました。



附属島田中学校のフレッシュな1年生3人組が、自分の人生を支えてくれるヒーローや宝物について意味あるやりとりを継続する、話すこと（やりとり）の良さが存分にわかる島田No.1の番組。

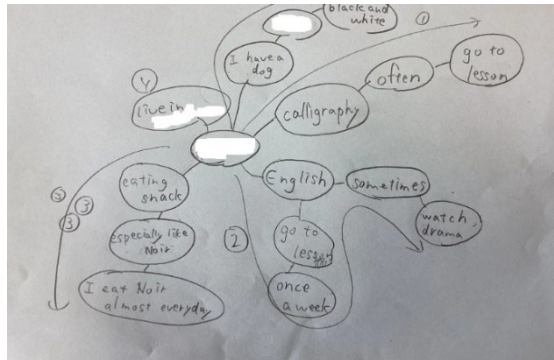
単元終末の活動に向けて、毎時間、違う３人組で、様々なトピックでやり取りを継続し、少しずつ自信をつけました。（詳しくは３（２））

3 2つの意識したポイント

即興的に自分の思いや考えを話すこと（やり取り）ができるように次の2つのポイントを大切にしました。

(1) マッピングで思いや考えを広げてキーワードで言葉を紡ぐこと

言語活動の充実が求められている中で、自分自身の過去の授業を振り返ると、手立てなく自分の思いや考えを伝えさせようとして生徒が混乱していた場面がありました。逆に、原稿を書かせてしまうと生徒の即興性は身に付きにくくなります。1学期は2つの単元を通して、マッピングをして自分の思いや考えを広げ、整理する時間を設定しました。その後、キーワードを使ってやり取りをしたり、質問を考えたり、質問に対して応答したりする練習を重ねました。最初は言いたいことを紙に書かないと不安な生徒も、単元の終わりにかけて自信がついたように見えました。マッピングっていいと思います。



(2) やり取りを継続させるためのコツを考えること

1 時間目に、生徒は3人組での対話活動を行いました。対話が思うように続かず、本当に4分間もやり取りを継続できるのか不安に感じた生徒も多くいました。それから毎回の授業の帯活動としてトリオチャットを積み重ねました。生徒たちは、会話をする経験を積み重ねることによってできるようになったことと、課題となる部分を客観的に分析し、次の授業にいかそうとしていました。また、「前の授業よりもできた」という経験が日々の授業のモチベーションになり、こんなことが言いたいや、もっと上手に反応したいなどの向上心につながりました。もちろん良い経験ばかりではなく、思うようにならない経験をした生徒も一定数いました。しかし、なぜうまくいかなかったのかを分析し、言語化することで、次に向けた改善したほうが良い点を自分自身で把握しました。うまくいった経験も、うまくいかなかった経験も、言語学習には大切であり、それらを書いて振り返る時間を活動後に設けることは生徒にとって有意義であると実感しました。

Good Listenersとして意識したこと	使った表現(*Reactions,質問文など)	次の授業で改善したいこと
相手の話を最後まで聞くこと。 相手が話しているときに目を合わせる。 相手が話しているときにうなづいてあげる。 相手が話しているときにうなづいてあげる。	Oh, that's nice! -Because~ Me too. I see.	・聞いています、リッパ ・スを通すこと。 (聞いてはなかったけど) ・聞きかめ、うなづいた。
相手の話を最後まで聞くこと。 相手が話しているときに目を合わせる。 相手が話しているときにうなづいてあげる。 相手が話しているときにうなづいてあげる。	言われたことをよく返す。 (I like YOASOBI. (M)) Oh, you like YOASOBI?	・もっとたくさんのお話を ・する。 ・Topic MS を広げ ・ていく。
・楽しく、会話すること。 ・相手の話を最後まで聞くこと。 ・自分の自分の話を最後まで聞くこと。 ・相手の話を最後まで聞くこと。 ・相手の話を最後まで聞くこと。 ・相手の話を最後まで聞くこと。	リアクションをたくさん使った。 → Nice! I know! → 相手の話を最後まで聞くこと。 → 相手の話を最後まで聞くこと。 → 相手の話を最後まで聞くこと。 → 相手の話を最後まで聞くこと。	・日本語の授業で話 ・してきただけ、文章が分 ・かからない。 → 相手の話を最後まで聞くこと。 → 相手の話を最後まで聞くこと。 → 相手の話を最後まで聞くこと。 → 相手の話を最後まで聞くこと。

4 成果と次への課題

小学校で話すことの素地を身に付けているので、英語を使ってやり取りすることへの抵抗感が比較的小さい状態からスタートし、単元を通して今まで以上に英語でやり取りする力が身に付きました。以下は生徒の単元終了時にとったアンケートに書かれていた成果と課題を簡潔にまとめたものです。

<成果>

○コミュニケーションスキルの向上

リアクション（共感や繰り返し）やジェスチャー、アイコンタクトなどの非言語表現の大切さを学び、相手が安心して話せる雰囲気づくりができるようになりました。

○会話を広げるテクニックの習得

相手の話に関連した質問や疑問文（5WHIやDo/Can等）を使ったり、知っている簡単な単語・文法を工夫してつなぎ合わせたりして会話を継続しました。

○英語でのやり取りや3人組対話の楽しさの実感

間違いを恐れずに一生懸命伝え合う楽しさを知るとともに、3人（トリオチャット）など複数人で話す際の工夫（誰に話をふればよいか等）に気づくことができました。

<課題>

△語彙力・文法力（知識面）の強化

言いたいことがあっても単語や文法がパツと浮かばない・英文を素早く組み立てられないため、基本表現や疑問文の知識を増やす必要があります。

△即興で関連する質問を生み出す力

話題に応じた適切な質問がとっさに思いつかず沈黙してしまうことがあるため、即興的に質問をし、話を広げる力を身に付ける必要があります。

△会話の配慮と時間配分（複数人でのやり取り）

特定の人だけが話しすぎないように会話を回す配慮や、自分の言いたいことも時間内にしっかり伝える時間配分の工夫が必要になります。

中学校3年間で育みたい英語を使った「即興的」なやり取りする力の基礎を身に付けました。即興性は継続することで身に付くので引き続き意識していきます。「言いたいこと英語で言えない」が自分の言葉で言えるようになるように、練習や言語活動を積み重ねていきます。「子どもたちが小学校で培ったものを伸ばしたい」という視点をもつと、小中連携をより意識した授業づくりになるということを授業者として実感しました。